

令和3年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
林産部門

積雪寒冷地域の再造林を支えるために独自技術で発展し続ける苗木生産

○氏名又は名称 大森 茂男

○所在地 岩手県二戸市

○出品財 技術・ほ場（苗ほ）

○受賞理由

・地域の概要

二戸市は、岩手県の内陸部北端に位置し、内陸性気候のため寒暖の差が大きく、年間累積積雪量は約2.9mに及ぶ。積雪寒冷地域であることから、山林用苗木の生産が難しい地域であったが、戦後の拡大造林期には県内の一大生産地にまで発展し、現在も県内全域への供給元として重要な役割を担っている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

昭和33年から父が始めた苗木生産業へ昭和45年から参加し、平成2年に経営を委譲された。苗木生産に不向きな積雪寒冷地に適した生産技術体系を確立し、平成10年度第38回農林水産祭では、日本農林漁業振興会会長賞を受賞した。その後も、新設備の導入やコンテナ苗生産に取り組み、生産規模の更なる拡大に努めた結果、岩手県の苗木需要の半数程度を占める県内最大の苗木供給者へと発展を遂げた。

・受賞者の特色

(1) コンテナ苗を活用した生産性の向上

コンテナ苗の生産については、実証試験の少なさから導入には慎重であったが、裸苗の生産と比較して、労働負荷が少ないことや、冬季にはビニールハウスでの屋内作業を可能としたことから、近年はコンテナ苗を中心に生産を拡大し、裸苗も含めた山行苗木の本数を20年間で年間約140万本から約220万本に増産させた。

(2) 地域の再造林を支えるための技術開発

造林者のニーズに応じた苗の保冷による出荷時期の調整、気候条件等の影響を考慮したきめ細かな育苗管理、施肥のコントロールによる耐寒性苗の生産、さらに独自のアイデアに基づくコンテナ苗の生産施設や保冷库の導入と、コンテナ苗の雪中置きによる育苗作業期間の拡大など、様々な技術開発に取り組んできた。

・普及性と今後の発展方向

全国各地の苗木生産者や研究機関からの視察を受け入れ、独自開発した育苗技術を広く普及することで、多くの苗木生産者の作業効率向上に寄与するとともに、後継者の育成にも尽力しており、全国の林業振興に大きく貢献している。また、高齢女性や障害者の雇用の場を積極的に創出するなど地域の活性化にも努めている。今後も、さらにコンテナ苗やスギ花粉症対策苗木の増産等を計画しており、引き続き、県が推進する再造林を支える経営体として活躍が期待される。